令和５年度　江戸川区立南葛西第二中学校　学校関係者評価　年度当初・中間報告書

学校教育目標	国際社会に貢献できる人間の育成を目指して ・人権を重んじ自他を敬愛する（礼儀） ・自主自律の習慣を身に付け将来を目指して自己実現を図る（自律） ・心身を鍛え、個性の発揚を図る（自律） ・所属社会の向上と環境改善を目指して着実に努力する（開拓）	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	自他を大切にし、自分や社会の目標達成のために、互いに高めあえる学校 「自分を大切に　人を大切に　今を大切に　未来を大切に」することができる生徒 生徒とともに、自己啓発と自己変革に意欲的に取り組み、自ら学び・伸びることができる教職員
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞ 〇落ち着いた学習環境を整備・維持し、コロナ禍の中にあっても生徒の主体的な活動場面を企画運営できたこと。〇いじめや問題行動への早期発見・早期解決に寄与する組織的な指導体制が推進できたこと。〇特別支援教育への共通理解のもとに、個別指導が円滑に行われたこと。 ＜課題＞ 〇各種学力調査におけるC層・D層の割合が引き続き区平均を上回っていること。〇学力向上策の一環として、保護者と連携して家庭学習の充実をいっそう推進すること。〇登校できない生徒の中長期化の未然防止と早期解消を図るため、学習支援と関係機関との連携体制を一層整備すること。		

教育委員会重点課題	＜取組項目＞　・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	◎「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」の実効性を高めるため、以下の取組等を実施する。 〇学校独自の学習コンテスト：年3回（study weekとの連動、ベーシックドリルの活用） 〇放課後補習教室「放課後学習塾『学力アップへのトライ』」：週5回（各回最大18名） 〇定期考査前質問教室等の補習機会：年間延べ60回	・学習コンテストにおける、生徒の「自己目標」達成率80％ ・放課後補習教室常時参加者60名（定員比67％）出席率：80％ ・質問教室等参加者：1生徒平均5回以上の参加	B	C	〇学習コンテストは実施できた。各種学力調査の成果は十分ではない。 〇放課後学習教室申込者は72名（定員比80%）となった。出席率もおおむね良好である。 〇質問教室は実施したが、参加者は限られる状況がみられた。	C	〇進学状況を見ると、まだ成果が出ていないように感じる。	〇学力向上に向けた取組をいっそう確かなものとするために、生徒・保護者に対して機をとらえて意義を伝え、家庭学習の夕刊を高め、自学自習に対する生徒の意欲を喚起する。
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	◎調べ学習・探究的な学習等を通じて、自ら学ぶ機会を充実させるために、以下の取組等を実施する。 〇タブレット端末の利用促進：総合・読書科での利活用の推進 〇区立図書館との連携及び図書ボランティアとの連携 〇ビブリオバトルの実施：全学年で実施 〇朝読書の時間の充実	・タブレット端末を活用した生徒成果物を各自2点以上制作 ・生徒一人あたり貸し出し冊数：前年比10％増 ・生徒アンケートにおける該当設問の肯定的評価80％以上 ・読書課題への提出率：70％以上	B	C	〇朝読書は各学級とも集中して取り組めている。学校図書館の利用者は限られた人数にとどまり、貸出冊数は増えていない。 〇タブレット端末は、全教科での活用が行えている。調べ作業を含め、読書科の目標に資する利用が図られている。	C	〇生徒に「本、読んでいる？」と何かの機会に質問すると「読んでいない」と答えることがよくある。	〇学校図書館の利用を活性化するとともに、継続的に読書科の取組を通じて読書量の増加を図る。 〇タブレット端末を校外学習等も含めて有意義に利用し、情報活用能力を高める。
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・改善	◎心身を鍛え、個性の発揚を図る素地としての個々の体力と健康を定着するため、以下の取組等を実施する。 〇保健体育科での補強運動：毎時間実施 〇体力向上週間の実施：学期に1週間 〇運動部活動の取組の充実	・生徒アンケートにおける該当設問の肯定的評価80％以上 ・生徒アンケートにおける該当設問の肯定的評価80％以上 ・運動部活動所属者における活動への肯定的評価80％以上	B	C	〇保健体育科の授業内での体力向上は推進されており、コロナ禍の収束傾向にある中、運動会も予定通り実施でき、休み時間の校庭での活動も制限なく行えるようになった。生徒の意欲は高い。 〇運動部活動では、ソフトボール部に続き、野球部・サッカー部も3年生の引退とともに休止状態となっている。	C	〇部活動があまり盛んではないのが残念である。 〇運動系の部活動が、もう少し盛り上がるとよいと期待します。	〇運動機会の増加を図るため、引き続き生徒会が主体となって体育館開放等を実施する。 〇運動部活動の活躍や成果について、機をとらえて紹介し、活動の活性化につなげる。
共生社会の実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	◎「ともに生きるまちを目指す条例」の想いを実現する「共生社会ビジョン」を生徒が意識し、広く共生社会の実現を目指すため、以下の取組等を実施する。 〇SDGsに関する学習の充実 〇特別支援教育推進委員会の活性化：週1回 〇心を落ち着け、学習活動に向き合えるスペースの充実 〇副籍交流における交流の充実と連携の深化	・生徒アンケートにおける該当設問の肯定的評価80％以上 ・保護者アンケートでの認知度：前年度比＋10％ ・保護者アンケートでの認知度：前年度比＋10％ ・直接交流を学期1回実施	B	B	〇週1回、校内特別支援教育推進委員会を実施し、具体的な指導方法・指導方針等の共有が図られた。 〇特別支援教育に関する啓発を一層推進する中で、アンケートにおいては肯定的な回答を得ている。	B	〇以前より落ち着いている。2年前くらいは自分を制することが困難な生徒が何人か見られた。	〇特別な支援を要する生徒が一定数いることを念頭に、保護者との信頼関係を深め、関連機関と連携して、引き続き適切な指導の推進に努める。 〇学校便り「登り藤」等で特別支援教育の成果等に関しても情報提供していく。
子どもたちの健全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper−QUの活用	◎生徒がよりよく生きていくための様々なスキルや思考力・判断力を身に付けるための指導助言を充実させるため、以下の取組等を実施する。 〇幅広く生徒の情報を共通理解するための、校内生徒連絡会…週1回 〇いじめ防止対策委員会…週1回 〇外部との連携に関する情報の共有…月1回 〇SNSの利用の適正化を図る取組の推進：「南二スマホルール」の定着	・いじめ継続件数…0 ・登校できない生徒数…前年比50％減 ・SNSに起因するトラブルの未解決数…0	B	B	〇週1回の生活指導に関する校内委員会において、いじめ基本方針に基づく取組や登校できない生徒への個別・段階的指導について共通理解をして取り組めている。 〇引き続き、いじめの早期発見のための取組や登校できない生徒への関係諸機関との連携を進め、早期発見・早期解決に努める。	B	〇以前に比べると、休み時間や授業中にトラブルをおこしている生徒たちを見かけなくなった。	〇定期的に実施する生徒指導連絡会等の校内委員会において、個々の生徒の実情に応じて早期発見・早期解決に資する具体的な対応策を検討し、組織的な取組を推進する。
地域に広く開かれた学校（園）の実現	＜自校（園）の取組の積極的な発信＞ ・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実施・充実	◎生徒に・保護者に・地域に・教職員に魅力ある学校づくりを進めるにあたり、本校の実態（良さ）を知っていただくため、以下の取組等を実施する。 〇ホームページ等による情報発信の更新を週3回以上実施 〇学校公開日等、授業参観機会の提供：年4回以上	・保護者による学校評価アンケート：満足度80％以上 ・授業参観機会の参観者、のべ1000人以上	B	B	〇各質問項目について、数値目標とする肯定的評価を得ることができた。 〇ホームページの更新・公開については、おおむね計画通りに行えている。 〇学校説明会・授業参観の参観者は限定的であった。	B	〇より積極的な情報発信に期待します。 〇学校応援団の活動（特に陶芸）をもっと保護者に周知してほしい。	〇陶芸の授業等に学校応援団の支援を受けた。この成果を広く発信することで、より学校への支援の輪を厚いものとする。 〇今後、職業講話の講師を招くなど、キャリア教育の充実にも人材活用を行う。
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・生徒による授業アンケート、生活アンケート：年2回 ・保護者による学校評価アンケート：年2回 ・学校評議員会の定期的な開催および授業参観機会の提供：年3回	・全設問において肯定的評価80％以上 ・保護者アンケート回答率75％以上、その肯定的回答80％以上	B	C	〇学校公開や各行事におけるアンケートはおおむね肯定的な評価をいただけている。 〇保護者による学期末におけるアンケートの回答率は不十分であった。	B	〇アンケートの回答率がなかなか上がらない。	〇保護者からの意見聴取に資するアンケートについては、回答率を高いものとする電子化を推進するとともに、TETORU等を活用して周知を図る。
特色ある教育の展開	・「国際社会に貢献できる人間の育成を目指す」「生徒に・保護者に・地域に・教職員に」魅力のある学校として、相互の自己肯定感・自己有用感を醸成するため、広く地域に根差した学校づくりを進める	・地域行事への参加、地域内での生徒の活動を増やし、本校の魅力を伝え、教育活動への参画意欲を高める。	・地域行事への参加・参画：年間6回以上	B	B	〇地域行事に参加することができるようになり、地域住民の方に本校の生徒のよさを知っていただく機会が増やせた。	B	〇吹奏楽部は積極的に活動の場を広げている。 〇小中連携の取組が活発に行われ、小学生にとっても意義深い交流ができた。中学生の姿は目指すに値する素晴らしいものであった。	〇校外での活動を漸増させるとともに、その周知を図り、いっそう地域に根差した学校づくりを進める。
	・「働き方改革」の一層の推進	・ライフワークバランスの推進を通じて、定時外在校等時間を縮減できる業務の精選を行う。	・定時外在校時間80時間以上を3か月連続する教員0名	C	C	〇定時外在校時間が80時間を超える教員は減少傾向にあるが、なお100時間超となる教員があった。	B	〇職員室の雰囲気が以前よりよい。	〇定時外在校時間が基準を超えている教職員について、引き続き業務改善に関する支援を行う。